

農業で脳は活性化する？

ATRが裏付け 研究に着手へ

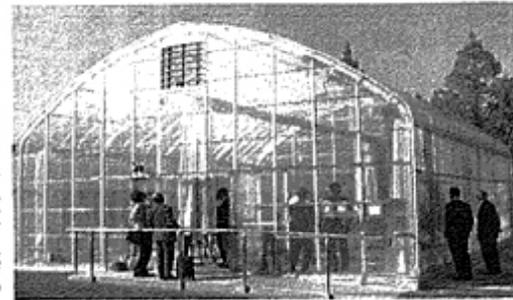


きょうつから施設公開

精華町のけいはんな学研都市にある国際電気通信基礎技術研究所（ATR）などは、同研究所内に設置した砂栽培の温室設備を使い、農作業が脳の活性化などに役立つかどうかの研究に着手する。7、8両日に施設を公開する。

研究に参画する大阪府四條畷市のグリーンファーム

①高齢者や障害者でも作業がしやすい温室内。葉物野菜が栽培される予定だがATRの敷地内に設置された温室



によると、農業生産に携わること、自閉症の子供が明るくなったり、車いすの子供が立てるようになったりするケースがある。ATRの脳活動計測技術を使うことで医学的な裏付けができれば、高齢者や障害者らの活力向上に向けた農作業の普及を図る考えだ。

研究には、四條畷市にある日本砂栽培協会と東レ建設（大阪市）も参画。砂裁

培は連作が可能以上にランニングコストが安いメリットがあるうえ、障害者や高齢者にも作業しやすい環境が整えられる。

具体的な研究方法はこれから詰めるが、高齢者らがATRの温室でサニーレタスやネギ、水菜などの栽培作業を行い、作業時の脳波などがどのように変化するかを調べていくことなどを考えている。

施設公開の問い合わせは、ATR（☎0774・95・2524）まで。

（飯塚隆志）